

剣道試合における個人戦と団体戦の違いについての一考察

村上 菜都美 (大阪教育大学)

1. 目的

剣道試合には個人戦と団体戦がある。剣道は個人戦が基本だが、学生剣道に限らず少年や中・高等学校では、個人戦の積み上げによる団体戦の勝敗で競うことが多い。団体戦には引き分けがあり、他者の試合の影響を受けることから得意、不得意がある。そこでOK大学剣道部員の過去4年間の公式戦の勝率を見ると女子団体戦(57.39%)、個人戦(49.09%)、男子団体戦(43.08%)、個人戦(30.0%)と団体戦の勝率が高い。また、黒田(2001)は、高校生は団体戦の引き分けは勝敗に重要と考え、そのことが高校生の剣道の意識の違いを生じさせていると報告している。そこで、本研究では剣道試合における個人戦と団体戦の好嫌や性別等により剣道の意識に差があるかを明らかにすることを目的とした。

2. 方法

独自作成「剣道試合における個人戦と団体戦の違いについて」による意識調査を実施した。

〈調査対象〉: OK大学剣道部主催, 第32回小右武剣道大会, 参加高校生330名(有効回答数300)

〈調査期日〉: 2019年12月8日

〈調査項目〉: 黒田が抽出・命名した「伝統性」「付加価値」「勝利主義」「相手尊重」の因子を基に独自尺度を用いた調査紙を作成した。

「伝統性」……剣道をわが国の固有の伝統文化としてとらえ、継承・発展させようとする意識

「付加価値」…試合それ自体とは別に意図された外在的目的のための手段として、剣道を実践する意識

「勝利主義」…勝つことを最も重視している意識

「相手尊重」…武道として大切な考え方の一つであり、剣道の理法の基本精神から表出する意識

〈分析方法〉: 尺度ごとに得点を算出し、フェイスシートをもとに分類した群間による比較を行う。さらに、IBM SPSS Statistics Subscriptionによる統計処理をした。

3. 結果と考察

(表1)はフェイスシートで個人戦好きと回答した者を個人群, 団体戦好きを団体群, 全国大会出場校を上位群, それ以外を下位群, 男子, 女子各群を尺度毎に比較した結果である。(T検定0.05%水準で有意な差があるものに*を標した。)

1) 個人戦, 団体戦の好嫌での比較

個人群, 団体群を比較すると、「伝統性」「付加価値」に有意な差があった。団体群の方が伝統文化としてとらえ、継承・発展させようとする意識が高く、試合それ自体とは別に意図された外在的目的のための手段として剣道を捉えている。団体群は、個人群が嗜好する個人主義ではない、日本的で伝統的に仲間を大切に考える考え方を持っている。また付加価値の勝敗の結果は個人戦よりも団体戦の方が得やすいと考えているからだと思われる。

2) 性別での比較

男子, 女子両群を比較したところ、「付加価値」「相手尊重」に有意な差があった。男子群の方が「付加価値」が高く、女子群の方が剣の理法を大切にし、相手を尊重している。これは、男子群が試合の成績や結果が進路に影響すると考え勝敗にこだわっているが、女子群は結果にこだわることなく敵対する相手というより、共に育っていく相手として尊重している。

3) レベルでの比較

上位校群, 下位校群を比較すると、「付加価値」「勝利主義」に有意な差($p < 0.05$)があった。上位校群の方が「付加価値」「勝利主義」も高く、上位校群が勝つことで得る付加価値を求めている。

4. まとめ

男子群で上位校群に所属する団体群が付加価値を求めている。剣道に限らずスポーツは付加価値も重要だが、付加価値に左右されない内発的動機付けも大切である。特に団体群は、付加価値志向から内発的な動機付けを高めていく指導する必要もある。

(表1) 調査の下位尺度得点の群間比較の結果

	男子・女子	上位校・下位校	個人・団体
伝統性	NS	NS	個人<団体 *
付加価値	男子>女子 *	上位校>下位校 *	個人<団体 *
勝利主義	NS	上位校>下位校 *	NS
相手尊重	男子<女子 *	NS	NS

($p < 0.05$: *)

